



大学ボランティアセンター 職員セミナー2023

オンライン
Zoom開催

私たちは“ボランティア”を
なぜ推すか、どう押すか？

学生生活への制限がほぼなくなり、学内に活気が戻ってきました。学生たちのボランティア活動もかつての活気を取り戻しつつあります。しかし、途切れてしまった地域での活動をどう再開するのか、ボランティアではなくインターンを選ぶ学生の増加について、体験程度のボランティア活動で終わってしまいがちの学生、等々・・・多様な課題も見えてきました。ボランティア活動を通じた学生の成長や地域の活性を願う大学としての役割を、私達は十分に果たせているでしょうか。今回のセミナーでは、学生とボランティアとの関わり段階をいくつかに想定しながら、あらためて私達は“ボランティア”をなぜ推すか、どう押すか？をテーマに、課題や可能性について共に考えたいと思います。

開催日

9/7(木) 9:30~12:30
8(金) 13:30~17:00

定員

各日40名程度

対象

大学ボランティアセンター、サービスラーニングセンター、地域連携センターなど学生・大学の社会貢献活動を推進する部署、プログラムの運営、実践に関わる教職員／開設を検討している教職員／支援を担当されている大学教職員／開設や運営を支援している学外の中間支援組織の方

参加費

9/7(木) 基礎セミナー 4,400円
9/8(金) 実践セミナー 4,400円
(各日、JVCA会員は3,960円)

申込



<https://ws.formzu.net/dist/S51483631/>

締切：8/31(木) 17:00

9/7(木) 9:30~12:30
基礎セミナー

学生がボランティア活動に参加する意義や、大学としてどのようにボランティア活動を支援すればいいのかなど、大学ボランティアセンターの運営に必要な基礎知識を学びます。また、学生ボランティアに対する地域の期待や学生を地域の施設や団体に送り出すにあたり留意しておきたいことなど、ボランティアコーディネーションのポイントについても理解を深めます。

ボラセン紹介では、2つのボランティアセンターへの訪問レポート動画を元に、実際のセンターの雰囲気や、掲示やレイアウトなどもお伝えします。

大学ボランティアセンターの新任担当者のほか、今後、センターの設立を検討している大学、設立したばかりの大学の教職員の参加も歓迎します。

(ボラセン紹介)

- ・関西学院大学ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室
- ・中央大学ボランティアセンター

講師

大谷大学社会学部准教授
赤澤 清孝さん



【講師プロフィール】

1974年兵庫県伊丹市生。阪神・淡路大震災をきっかけに翌年、学生有志できょうと学生ボランティアセンター(後のユースビジョン)を設立。学生のボランティア活動支援や団体のマネジメント支援に取り組む。2013年より大谷大学教員として学生らと地域連携活動を展開。著書に「学校ボランティアコーディネーション」(筒井書房、共著)等。

主催・問い合わせ

認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会 (JVCA)
TEL 03-5225-1545 E-mail: jvca@jvca2001.org

9/8(金)13:30~17:00 実践セミナー

参加にあたって

- ・分科会は第1希望から第2希望までお聞きし、調整します
- ・同じ所属から複数の方が参加される場合でも、一人ずつお申込みください
- ・グループワークを行いますので、一人一台の機器(PC等)でご参加ください

<全体会>13:30~14:00

「なぜ学生はボランティアしないのか?」※こちらの企画は動画上映となります
ゲスト:川中大輔さん(シチズンシップ共育企画/龍谷大学社会学部准教授/JVCA理事)
進行:赤澤 清孝さん(大谷大学社会学部准教授)

<分科会>14:10~16:30 ※いずれか1つにご参加いただきます

- 【分科会1】ボランティアの初めの一步~長靴からサンダルにはきかえてもらう その一手~
- 【分科会2】2歩目・3歩目へ共に歩もう!~次のステップへのコーディネート~
- 【分科会3】学生スタッフとの距離感を考える~活動から人生相談まで~
- 【分科会4】「今、こんなことで困ってます、戸惑ってます」新任コーディネーターのためのなんでも相談会

<全体会>16:35~17:00

各分科会の共有 など

分科会1 ボランティアの初めの一步~長靴からサンダルにはきかえてもらう その一手~

「ボランティア」。やったことのない学生にとっては、最初の一步は足が重くて、動き出せるまでに大変なパワーがいるものかも!?そんな学生が少しでも気軽に活動に参加するにはどうすればいいか、そもそも「ボランティア」に興味をもってセンターに足を運んでもらうにはどうすればいいか?この分科会では、初めの一步をどう引き込むのか、少しでも、その一步が軽くなるような工夫のアイデアについて、一緒に考えていきます。

進行・事例提供:秋田 有加里さん(愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター コーディネーター)
山崎 智文さん(京都産業大学ボランティアセンター コーディネーター)

事例提供:日比野 勲さん(東洋大学ボランティア支援室 コーディネーター)
コメントーター:川田 虎男さん(聖学院大学ボランティア活動支援センター アドバイザー)

分科会2 2歩目・3歩目へ共に歩もう!~次のステップへのコーディネート~

ボランティアへの第1歩を踏み出すことができた学生と出会うと嬉しい反面、「楽しかった」「満足した」「思ったよりもいいちだった」とそこでボランティアの世界から去ってしまうもどかしさを感じることはありませんか。この分科会では、第1歩をコーディネーターとしてどう深めていくか、具体的な次の活動機会とどうつなげるかなど、「2歩目・3歩目」という次のステップに向けて学生たちとどう歩んでいくかを、話題提供者の話聞くだけではなく皆さんとともに語り合いながら考えます。

進行・事例提供:岡 秀和さん(元・関西学院大学ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室 コーディネーター)
開澤 裕美さん(中央大学ボランティアセンター コーディネーター)

分科会3 学生スタッフとの距離感を考える~活動から人生相談まで~

大学ボランティアセンターのコーディネーターが学生スタッフとともに活動する際に頭を悩ませる「どんなタイミングで学生の活動に介入する?」「どこまで助言する?」ということや、学生とのやりとりを重ねていく課程で、学生が抱える深い悩みに触れてしまったときの対応、みなさんはどうしていますか?この分科会では、手取り足取りではないけれど一人ひとりに親身になって向き合うといった、学生の主体的な活動と人としての成長を全力で応援するための『ややお節介な』関わりを一緒に考えたいと思います。みなさんの日ごろの関わりを持ち寄って、次の関わり方のヒントを持ち帰りましょう。コーディネーター歴3年以上の方や、自分はどちらかという学生とどっぷり関わっていると思う方、お節介というワードが(良い意味で)気になる方におすすめです。

進行・事例提供:芦澤 弘子さん(聖学院大学ボランティア活動支援センター コーディネーター)
竹田 純子さん(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター コーディネーター)

分科会4 「今、こんなことで困ってます、戸惑ってます」新任コーディネーターのためのなんでも相談会

新任コーディネーターや新しくボランティアセンターを立ち上げることになった大学の教職員を対象とした分科会です。これまで複数の大学のボランティアセンターの立ち上げ期に、コーディネーターとして携わった経験者を講師に迎え、組織づくりや活動づくりのポイントを学びます。仕事の悩みや疑問を分かち合いたい、解決したいという新任のみなさまの参加をお待ちしています。(なお、センターの目的や機能、コーディネーターの基本的な役割等は、基礎セミナーで講義します。)

進行:赤澤 清孝さん(大谷大学社会学部准教授)
事例提供:足立 陽子さん(淑徳大学地域共生センター コーディネーター)